

**燃焼系ハーブ「パロアッスル」 AMPK 活性化用組成物として特許取得**  
 ~エネルギー産生スイッチ ON による疲労回復、アンチエイジングサポートが期待~

株式会社 IHM（東京都品川区）が取り扱う機能性食品原料パロアッスルについて、2019年12月に「AMPK 活性化用組成物」として特許取得（特許第 6636396 号）した。



パロアッスルは南米パラグアイのチャコ地方に自生するキク科の植物である。現地では古くから糖尿病や腎臓病のケアとして飲用されており、日本でも主に生活習慣病対策を目的とした健康茶やサプリメント用として原料供給している。パロアッスルの作用の一部については原著論文として米国学術誌「Nutrition Research」に2本収載されている。本特許内容は、パロアッスルの溶媒抽出物又はパロアッスルの乾燥粉末を有効成分とし、老化の抑止のために用いられることを特徴とする AMPK 活性化用組成物である。

**【AMPK とは】**

AMPK は肝臓や筋肉、脂肪組織などの末梢組織や視床下部にてエネルギーセンサーとしての役割を担う酵素である。AMPK はカロリー制限や運動などで細胞内のエネルギー源（ATP）の減少に応じて活性化し、代謝を調整する。

特に、血糖の 8 割が取り込まれる骨格筋にて AMPK が活性化すると、脂肪分解やエネルギー産生につながる

るとともに、インスリンに依存しないで血糖を筋細胞へ取り込むことによるインスリン抵抗性の改善効果が期待できる。そのため、AMPK の活性化は細胞内のエネルギー代謝効率が向上した状態を意味しており、回復力が高まることで、速やかな疲労回復や老化抑制などのアンチエイジングサポートにつながると考えられる。

**AMPK活性化の主なメリット**

**AMPK  
活性化**



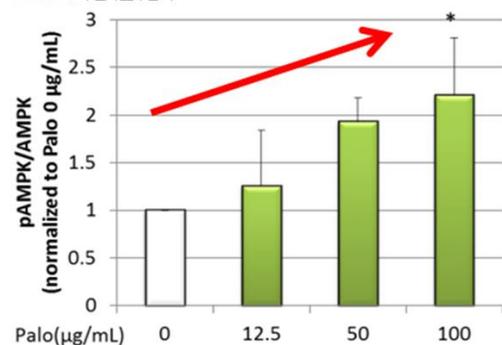
**インスリン抵抗性改善**  
(糖取り込み促進)

**スタミナUP(疲労回復)**

**脂肪分解**

**ミトコンドリア新生促進**

<AMPK活性化率>



### 【パロアッスルの作用機序と AMPK】

パロアッスルには、先駆けて実施したヒト試験において、健康長寿ホルモンであるアディポネクチンの増加や内臓脂肪、体重の減少、カロリー消費量増加などのさまざまな生活習慣病に対する作用が認められていたことから、作用機序を解明すべく 2011 年から千葉大学大学院薬学研究院との共同研究を実施している。

その結果、パロアッスルにより善玉脂肪細胞への分化に必要な不可欠なタンパク質（PPAR $\gamma$ ）に働きかけることで、アディポネクチン分泌や筋細胞での糖代謝を活発にすることが明らかとなった。また、PPAR $\gamma$ は抗肥満効果をもたらす熱産生タンパク質（UCP-1）の増加並びに活性化のスイッチを入れるが、パロアッスルは AMPK 活性化作用とともに UCP-1 機能の活性化作用も併せ持つことを確認しており、ヒト試験結果を裏付けるかたちとなった。

株式会社 IHM では上記のヒト試験、作用機序の解明に加えて、パロアッスルによる抗糖化作用（vitro）も確認していることから、「抗肥満」、「抗糖尿病」、「抗糖化」を柱としたエビデンスを中心に訴求し、原料供給及び OEM 提案を行っている。

なお、下記の 3 月展示会にて弊社が本内容をプレゼン（無料）にて発表致します。

- 健康博覧会 2020 3/17（火）13:40~14:10 東京ビッグサイト 青海展示棟
- 健食原料・OEM 展 3/25（水）10:20~10:50 東京国際フォーラム ホール E

### ■本件お問合せ先

株式会社 IHM 製品開発部 原料開発チーム <https://www.ihmg.jp/materials/>  
電話番号 03-5435-8657

抗メタボ	<抗糖尿病> ・血糖値、HbA1cの減少(ヒト) ・糖吸収を穏やかに阻害 ・糖化抑制作用	アディポネクチン濃度上昇(ヒト)	<脂質改善(ヒト)> ・HDLコレステロール増加 ・血中中性脂肪の減少
	<抗肥満(ヒト)> ・腹囲の減少 ・体重、体脂肪率低下 ・基礎代謝量の増加		<抗動脈硬化(ヒト)> ・相対的動脈硬化度の改善
抗ロコモ	・骨格筋量の増加(ヒト)		

以上